

東郷村報

第52号

昭和31年4月15日

発行所 宮崎県東臼杵郡 東郷村役場 日向市富高 安藤印刷所 電話64番

昭和三十一年度

東郷村教育の視點

本村の教育が村内各校に在職の八十五名の先生方の教育に対する熱意と村当局をはじめ村議会、PTA、一般村民の教育第一の協力により進展の一途をたどっています...

学校教育面

一、現職教育の充実

教育を進展させるにはその基礎的な条件が色々ありますが、先生達が各自の使命感を高め教育者たるの使命を確立していただき各自の職務を深めていただくことが最も大事なことであり、この面での措置を講じたと思っています...

二、道徳教育の徹底

終戦後、乱れた道義も一年と高揚されたはまより、一年と高揚されたはまより、一年と高揚されたはまより...

三、基礎学力の向上

各教科の基礎的な学力が低下しているのを聞くことも多いのであります。基礎的な学力が低下しているのを聞くことも多いのであります...

社会教育面

一、社会教育施設、設備の充実とその活用

各部の公民館が常に研究の中心となつて産業の振興に文化の向上に寄与するように努めたいと思つて...

二、社会教育関係団体の育成と活動促進

社会教育関係団体は青年団、婦人団体、PTA、その他文化団体等があり、そのうち青年団が各々その真使命に向つて進むよう育成したいと思つて...

三、社会教育講座の開設

現在本村では青年学級、暖かさと共に、いよいよ新年度に入りまして、村税に納付する方も、徴税令書が、次々と発行されて...

四、大衆通報の徹底

巡回映画は少くとも月に一回は各部で催したいと思つて、村報は本年も昨年同様一回発行いたします...

五、文化財の保存活用

本村には有形、無形の文化財がありますが、これは吾々の祖先が吾々に残した貴重な遺産であり、これが保存に力を注ぎたいと思つて...

六、地域社会の総合的振興計画の実現

常に「村おこし運動」と緊密な提携をとつて社会教育をすすめる産業振興、家庭生活の合理化、新生活運動の実践については特別に力を注ぎたいと思つて...

滞納をなくしよう

新年度から

暖かさと共に、いよいよ新年度に入りまして、村税に納付する方も、徴税令書が、次々と発行されて...



東郷小 六年 松沢 阡子

議会報告

昨年度末「区長中心」の納税機構の確立がなされて以来、試験的に実施した昨年度の固定資産税第四期分の納付状況は完全とはいえないまでも、その成果は大きいものであります...

やよ少年たちよ

若竹の伸びゆくごとく子ども等も真直ぐにのびせ身をたましひを。すみやかに過ぎゆくものをやよ少年等よ。汝が幼な日をおろそかにすなうつくしく清き思ひ出とどめおかむ願ひを持ちて今をすこせよ。

一年生の御父兄へ

桜の花咲く学校へ子供を入学させてから早一〇日、「家の子はどうしているか」と案じておられる御父兄に代り、チヨット一年生の生活をのぞいてみます...

中学生を持つ御両親へ

一、中学校の三年生は子供の将来を決定する。この期間に丈夫な體になつた子供はもう大丈夫ですが、弱い體になつたらもうおしなせいで、卒業後丈夫な體にするには並大抵なことではあります...

土の一簣

昭和三十年、一か年に本村で一箱の煙草の消費量は五十二万五千個に達した。これは一箱の煙草の消費量は五十二万五千個に達した...

Table with financial data including items like '村税', '地方交付税', and '公営企業収入' with corresponding amounts.

Table with financial data including items like '社会及労働施設費', '衛生費', and '産業経済費' with corresponding amounts.



# 婦人週間に思う

日本の婦人がはじめて国会の議員を選挙したのは、昭和二十一年四月十日でありました。その選挙を通じて婦人も男子とともに政治に参加できることになりました。その四月十日から一週間を「婦人週間」として婦人の地位をほんとうにかめる運動を、昭和二十四年から毎年行つて来ましたが、今年はその第八回目でありました。

従来の婦人週間においては、主として婦人自身の成長を強調してきましたが、今年には「日本の家庭を明るくするために婦人の力を役立てよう」ということを目標としています。

日本の家庭を明るくするためにには色々な事が考えられますが、婦人の力の偉大であることは申すまでもありません。

わたたくし達の家庭は心のふるさと  
人生のオアシス  
人類の貴重な資産  
といわれています。

わたくし達はこの家庭で愛情をみだしあい、さへあつて心の安定をえまます。

衣食住をえて、明日の活力を養います。  
人間として最初のしつけをうけます。

また社会にとつて家庭は次の世代がそだつところですから、

生産や文化をになう力が生れるところですから、このように家庭は個人の幸福の源であり、社会をよめる力の源泉であります。

このように大事な家庭の中に、はたまたまの不幸が降りかかると、残つてはいないでしょうか。

理解されない子供、家事につかれ切つている主婦、

気がねの多い嫁

## これから出る 麦の被害と防ぎ方



今年の麦は冬の間に、乾燥し過ぎたために例年に比べて生育がおくれているようでしたが、三月に入つてから降雨続きのため急激に伸びましたので麦の病気に注意が必要となりました。

今から急に「まんえん」すと思われ被害に次のようなものがあります。

(イ) 麦の病、病の種類の「黄病」「赤病」「黒病」「小病」の四種類ありますが、その中本村で重要なものは赤病と黒病で、黄病の発生時期は他の病より発生時期が早く主に葉、葉柄を侵し最初黄色の小さな斑点が葉脈にそつて「すじ状」に連つてでき、そこから黄色い粉を出します。更に日が立つと斑点の中に小さな黒点が出て被害を受けた葉は早く枯れます。

赤病は小麦にのみ発生し黄病よりおくれ四月下旬乃至五月上旬頃発病を見て主に葉を侵し、病斑は初め橙色又は赤褐色で黄病より大きく不規則に現われ

夫だけのつきあい  
不健全な娯楽  
若し残つているとすれば一日も早く取り去つて明るい家庭を作ることになりましょう。

明るい家庭のものは  
家族関係が民主的である  
合理的な生活設計をた

社会が家庭を尊重する  
などがあげられています  
が、家庭の一人一人が家庭を明るくするための努力が大切でしょう。

婦人は家庭の一員として新しい家庭のあり方を身につけ、社会の一員として家庭を大切にする社会環境をそだてるために婦人の力を役立てるようにつとめていただきます。

## 教育委員会便り

週間目位、第三回は第二回  
撒布後一週間に撒布し  
ます。雨の多い年は病気の  
発生が多く、殊に赤病は  
出穂期に数日降雨が続くと  
必ずといってよい位発生  
のおそれがありますので今後  
の天候に注意して米に次ぐ  
重要な食糧農産物である麦  
を病害から守りましょう。

一、教職員定期異動  
年度末教職員の定期異動  
により次の通り村内教職員  
の異動がありました。

転出された先生方には本  
村在任中熱心に本村教育の  
ために御尽力いただき村民  
一同深く感謝いたしていま  
す。

(転入)  
【東小】 岩崎玉磨先生 山瀬小へ  
橋口睦子先生 坪谷小へ  
【東中】 寺原美江先生 退職  
【東小】 金丸亨男先生 七ツ山小より  
森川一郎先生 宮大新卒  
金丸藤美先生 中ノ又小より  
【坪小】 菊池義男先生 山瀬小より  
赤木嘉夫先生 寺迫小より  
橋口睦子先生 寺迫小より  
【寺小】 野口哲生先生 不土野小より  
稲田稔先生 山瀬小より  
川村ツ子先生 坪谷小より  
坪谷小より  
二、昭和三十一年度村内各学  
校卒業生  
三月二十三日、二十五日  
に村内各学校の卒業式が行  
われまして小学校卒業生は  
四月それぞれ中学校に進学  
し、中学校卒業生は高校へ  
の進学や就職、家事従事と  
それぞれ将来に大きな希望  
をいだいて学窓を巣立ちま  
した。

## 戦歿者合同慰霊祭

四月三日午前十時から万葉の桜花咲き  
乱れる成願寺境内忠魂碑の前で日清戦  
役以後国難に戦歿された三七〇柱の英  
霊を弔う慰霊祭が盛大に行われた。

当日は春光うららかに山野を照し恰も  
勇士の偉勳を讃えるが如く美々津の清  
流はせんかたる音をたて、偉業を物  
語るように、村民またこぞ感謝の  
誠をさへげた。

## 郷土の「日常語」解明

特別項症から第四項症ま  
で十二回  
第五項症から第七項症ま  
で六回  
第一款症から第四款症ま  
で四回  
不具癈疾の程度が特別項  
症から第二項症までに該  
当する戦傷病者で乗車等  
をする場合に同行するこ  
とを必要とする介護者一  
人についても右と同回数  
乗車ができる。

△シミラシイ  
(凍みらし) シミラシ  
意……寒き身にしむ。氷  
るような。

解……「永久百首」に  
「夕暮のみぞにしみ  
やとけぬら垂氷(た  
るひ) 伝ひに零落つな  
り」とあり。元來文語  
に用いられ俳句の季題  
にも使われるが、言語  
の泰斗大槻博士に依  
れば奥州や佐渡では  
話語として「氷る」を  
「しみる」というとあ  
るが、私共の郷語で、  
風も氷るような寒空を  
「しみらし日和」な  
ど話合の語を知られた  
ら、定めて珍聞とせら  
れた事であろう。

例……「此の寒きよ、凍  
みらし日和ノウ」

△ヒリウヒリフ  
意……拾ふ。  
解……「拾ふ」の古語  
万葉集に「掃るきに妹  
に見せむとわだつみの  
神津白玉ヒリヒリて行か  
な」などある。

用例……「粟をどの位ヒ  
リウヒリ」

△ヨナケリ  
意……余分な餉、午後の  
病年金を受ける期間が  
なほ満了していない者  
(四)有期の増加恩給又は傷  
病年金を受ける期間が  
満了した者でその者の  
現症が特別項症から第  
四款症までの程度にあ  
る者

範囲に入らない者  
(一)有期の恩給を受ける期  
間が既に満了し現にそ  
の傷病の程度が第四款  
症よりも低下し又は回  
復している者  
(二)乗車回数(年間を通じ  
て)

△タカイノ  
意……薪など束ねる材の

△ヨナケリ  
意……余分な餉、午後の  
病年金を受ける期間が  
なほ満了していない者  
(四)有期の増加恩給又は傷  
病年金を受ける期間が  
満了した者でその者の  
現症が特別項症から第  
四款症までの程度にあ  
る者

範囲に入らない者  
(一)有期の恩給を受ける期  
間が既に満了し現にそ  
の傷病の程度が第四款  
症よりも低下し又は回  
復している者  
(二)乗車回数(年間を通じ  
て)

△タカイノ  
意……薪など束ねる材の

## 春の大掃除

そろそろカヤハエの  
時期です家の中や周囲を  
よく掃除して発生源をな  
くしましょう

山には紅白色とりどりの  
花や新芽が美をきそつて  
いる。里には麦の青、菜  
種の黄、れんげの紫が自  
然ののうせを織りなし  
ている。

春はものみないのちの伸  
張の季である。伸びよ  
う、伸びよう、麦が春光  
を浴びて伸びよう。  
わらびが春雨をうけて伸  
びよう。

だが春は心の浮き立つ季  
でもある。つじが咲け  
ば「つじまつり」ふじ  
が咲けば「ふじまつり」  
やれ「やれ、まつり」と  
うかれる機会が多い。遊  
山行楽もせちから昨日  
今日の生活には必要だが  
あまりうかきつてしま  
うと大変だ。

◆「春眠暁を覚えず」の句  
もあるように春は眠い。  
猫は鼠をよこすことを忘  
れて眠る。人は借金ある  
ことを忘れて眠る。甚し  
い人は魂の在りどころを  
え忘れた眠るといわれる  
春のことでもあるから。

◆各官公衙は愈々昭和三十  
一年度を迎えた。村内各  
官衙に職を奉じているの  
は一層自衛自戒して村  
民の公僕たるの実をあげ  
ることでしょう。

◆本月号には教育方面の記  
事を多くした。四月は入  
学の月でもあるので、  
御一読を乞う。

水底に  
魚の影さす春日かな



△ヨナケリ  
意……余分な餉、午後の  
病年金を受ける期間が  
なほ満了していない者  
(四)有期の増加恩給又は傷  
病年金を受ける期間が  
満了した者でその者の  
現症が特別項症から第  
四款症までの程度にあ  
る者

範囲に入らない者  
(一)有期の恩給を受ける期  
間が既に満了し現にそ  
の傷病の程度が第四款  
症よりも低下し又は回  
復している者  
(二)乗車回数(年間を通じ  
て)

△タカイノ  
意……薪など束ねる材の